

## 12) 広島県

井上尚子・久保晴盛・山本昌生（広島市植物公園）

### (1) 調査への取組

広島県は「タンポポ調査・西日本 2010」に参加したのに続き、今回が 2 回目のタンポポ調査への参加となる。前回は広島県教育研究会理科部会生物部が広島県実行委員会であったが、今回は公益財団法人広島市みどり生きもの協会 広島市植物公園が実行委員会を務めた。調査を始めるにあたって説明会を広島県内で 3 回行った。調査 2 年目の 2015 年 2 月 22 日には広島市植物公園に兵庫県立人と自然の博物館の鈴木武研究員を招聘してタンポポ講習会を開催し、種の同定などについて説明を受けた。データの収集は、広島県自然観察指導員連絡会の六重部篤志さん（464 点）、フリースクール RAPPORTE の山下まやさん（393 点）、近藤芳子さん（273 点）はじめ、およそ 300 人の参加者によって行われた。データの処理は、花粉の観察と同定以外は広島市植物公園ガイドボランティア有志の協力を得た。広島県実行委員会で同定できなかったサンプルは、調査サンプル同定会に参加したり、直接持ち込んだりして、狩山俊悟学芸員はじめ他府県の実行委員に同定していただいた。

### (2) 結果の概要

#### ① データが得られた地域

図 1 は今回の調査で有効なデータが得られたメッシュの分布図である。広島市や福山市の市街地とその周辺など、調査参加者の数が多い地域のデータが多いことは 2010 年の調査同様だが、今回は調査の空白域を狙って精力的に調査した参加者が何人かいたため、前回より広い範囲のデータを集めることができた。参加者の話を聞くと、有効なデータが得られなかった場所はタンポポがみつからなかった場所であることも多い。

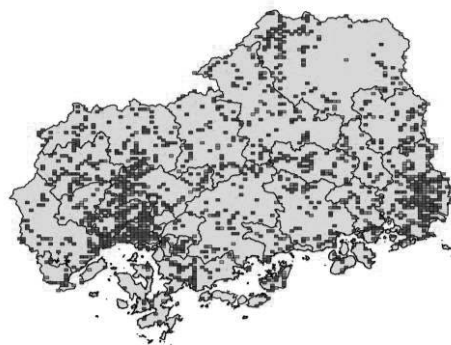


図 1. 広島県でデータのあるメッシュの分布

#### ② タンポポの種類

今回の広島県の有効データ数は 3175 点で、その内訳は表 1 の通りであった。本調査では二倍体在来種のカンサイタンポポ、トウカイタンポポ、黄花倍数体在来種ヤマザトタンポポ、クシバタンポポ、モウコタンポポ、シロバナ系在来種シロバナタンポポ、キビシロタンポポ、外来種セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、その他雑種を含む外来種が記録された。このうちモウコタンポポとトウカイタンポポは、広島県新記録である。モウコタンポポは広島女学院中学高等学校高校 1 年生の阪本愛さんと母親の阪本美智代さんが 2013 年から 2015 年にわたって広島城近隣の公園で発見、調査し記録した。

表 1 広島県における種類別分布地点数(2015 年)

種 類		地点数	比 率
在来種	カンサイタンポポ	111	3.5
	トウカイタンポポ	1	0.03
	在来種二倍体(不明)	3	0.09
	ヤマザトタンポポ	30	0.9
	クシバタンポポ	15	0.5
	モウコタンポポ	1	0.03
	シロバナタンポポ	528	16.6
	キビシロタンポポ	128	4.0
雑種を含む	セイヨウタンポポ	889	28.0
	アカミタンポポ	396	12.5
外来種	外来種(不明)	1073	33.8
合 計		3175	100%

まずは2014年の記録写真を2015年2月22日に広島市植物公園で開催されたタンポポ講習会の時に持ち込み、講師の鈴木武先生によってモウコタンポポと同定された。阪本氏は2015年も調査を続け、その結果をタンポポ調査西日本2015メーリングリストに掲載し、新潟大学名誉教授森田竜義先生にもこれをモウコタンポポと同定された。

トウカイトンポポは、2014年、当時広島大学学生環境サポーターであった梶田梨絵さん（現広島市安佐北区役所）によって広島大学構内の道路法面で記録された。

前回と今回の出現比率と比較すると、在来種についてはカンサイタンポポとキビシロタンポポがそれぞれ4.9%から3.5%、7.5%から4.0%と減ったが、シロバナタンポポは9.7%から16.6%に増加した。雑種を含む外来種については、前回は76%、今回は74%で、広島県のタンポポ全体の4分の3近く占める状態は変わっていなかった。広島県の外来種の内訳については、別項の伊東らの報告によれば、セイヨウタンポポと同定されたものの45.5%が雑種であったのに対し、アカミタンポポと同定されたものなかには雑種は含まれてなかった。

### ③ タンポポの分布状況

#### a. カンサイタンポポ（図2）

東瀬戸内を中心とした地域に集中的に分布しており、広島県の神辺平野はその濃密な分布域の最西端といえる。広島市内や県の内陸部など、他で小規模な群生がみられることがあるものの、旧街道沿いや、古い庭園、城址等が含まれ、人の持ち込みによる分布ではないかと推測されている（鈴木2011、浜田2011）。

#### b. ヤマザトタンポポ（図3）

個体数は多くはないが、広島県北部から島嶼部まで広い範囲に分布している。前回の調査では広島県西部からの報告がなかったが、今回は確認された。

#### c. クシバタンポポ（図4）

県北東部及び県北西部の中国山地沿いの中山間地域に分布している。広島市北部からもみつけた。前回の調査では広島県西部からは報告がなかったが、今回は確認された。

#### d. シロバナタンポポ（図5）

中国山地の高所を除き広く分布している。広島県ではタンポポといえばシロバナタンポポというぐらい広く多く分布し、外来種が広がる以前は白いタンポポしかなかった地域が多い（浜田2011）。今回の結果を見ると、なかでも分布密度が高いのは瀬戸内海沿岸部や太田川中下流域であった。

#### e. キビシロタンポポ（図6）

東部で分布密度が高い。全域分布図を見ると、岡山県中部から北部の吉備高原に濃密な分布域の中心があり、その西端が吉備高原の続きである世羅台地の東部となっている（浜田2011）。今回はこれ以外に広島県西部においてもキビシロタンポポの分布を確認した。中には植え込み内で明らかに移入種と思われるものもあったが、広島市安佐北区や安芸太田町の自生地などは、移入種かどうか判断できなかった。

f. 雑種を含む外来種 (図7)

県内に広く分布している。アカミタンポポ (図8) は広島市街地や福山市街地で特に分布密度が高い。これはアカミタンポポが都市部に集中する傾向があるとする鈴木 (2011) の見解と一致する。セイヨウタンポポは前述のように雑種との区別が難しいため、実態が把握できていない。最近では総苞外片が上向きの雑種が増えていて、広島県内でもロクアイタンポポやニセカントウと呼ばれるタイプを含め、総苞外片が上向きの外来種の雑種が 126 点記録された。

g. トウカイトンポポ、モウコタンポポ (図9)

モウコタンポポは広島城周辺の公園で土壌の入れ替えを含む工事が実施されたエリアで確認されている。また、トウカイトンポポは大学構内の道路法面で見つかっているため、どちらも国内帰化植物と推定される。いずれの産地も現時点では県内で 1 か所のみである。

h. 在来種二倍体不明種 (図9)

2014 年に広島県北東部から報告されたタンポポはカンサイタンポポとしては大柄で、シナノタンポポかセイトカタンポポではないかと議論された。しかし自生状況を観察した結果、現時点では周辺に生えているカンサイタンポポの一品種ではないかと考えている。確信は持てなかったため、不明種とした。

### (3) おわりに

広島県の「タンポポ調査 2015」は 300 人もの参加者によってデータが収集され、広島市植物公園ガイドボランティアによってデータが処理されるなど、数多くの協力者の力を得て実施された。参加者の熱意によって広島県新産のタンポポが発見されたり、前は明らかでなかった地域のタンポポの分布も知ることができた。

広島県の在来タンポポ 5 種は、水や土壌などの環境条件のみならず、地史的なもの、生態的なもの、人文的なものなど、様々な要素が背景にあると思われ、それぞれに特徴的な分布をしている。また、土壌が発達しない山地が多い広島県においては、根が地下深くまで伸びるタンポポの生育には適さない土地が多く、タンポポが元々生えていない場所も多い。したがって、広島県においては、在来種と外来種の割合の変遷を都市化などの環境変化の指標とすることは難しいと考えたので、今回はこのことについての考察を割愛した。

ところで広島市内では 1970 年代には広島城付近と縮景園に、カンサイタンポポが生育していることが知られていた (根平ほか 1977)。これが本来の自生なのか他から帰化したものなのか。今回広島県で新しく記録されたモウコタンポポやトウカイトンポポのように、土地の造成や植物の植栽工事などによってタンポポが新しい土地に定着することは少なくないと思われる。しかし定着から数年しかたっていない場合はそのことを明らかにすることが可能かもしれないが、数百年もたつとわかりにくくなってしまふ。今後も今回の参加者が継続して調査観察を行い、いろいろな謎を解明していただけることを期待したい。

### (4) 引用文献

根平邦人・瀬川道治・小林裕子・金田典子 (1977) 広島城付近のタンポポ類の分布. 植物と自然 11 (10):16-18.

鈴木武 (2011) 調査結果と考察. タンポポの種類と分布. タンポポ調査西日本2010調査報告書 17-26.

浜田展也 (2011) 広島県. タンポポ調査・西日本2010調査報告書 88-91.

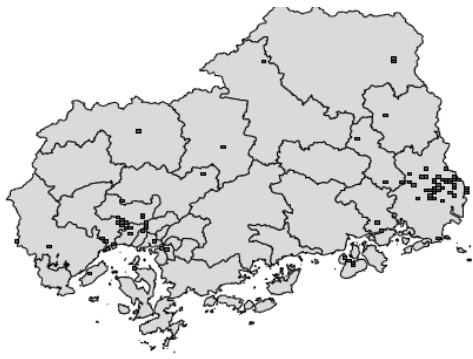


図2. カンサイタンポポの分布



図3. ヤマザトタンポポの分布

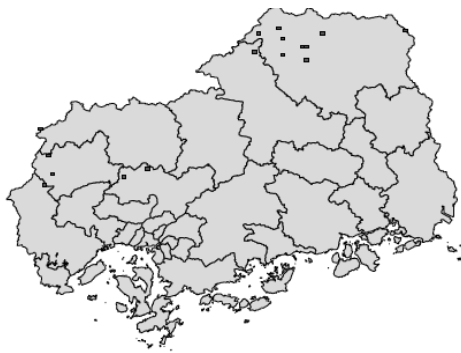


図4. クシバタンポポの分布

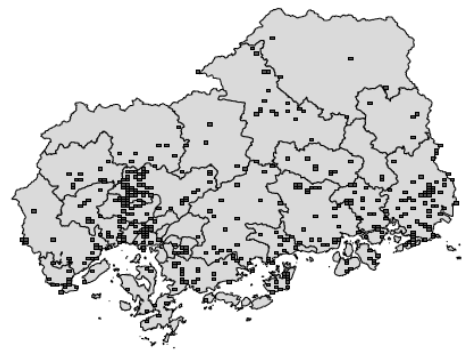


図5. シロバナタンポポの分布

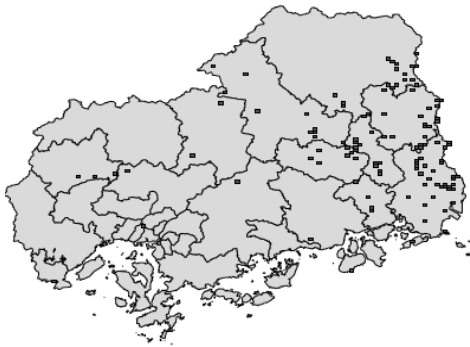


図6. キビシロタンポポの分布

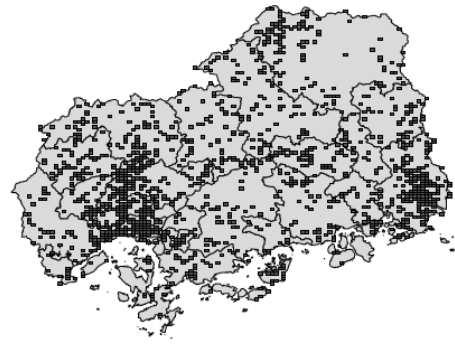


図7. 雑種を含む外来種の分布

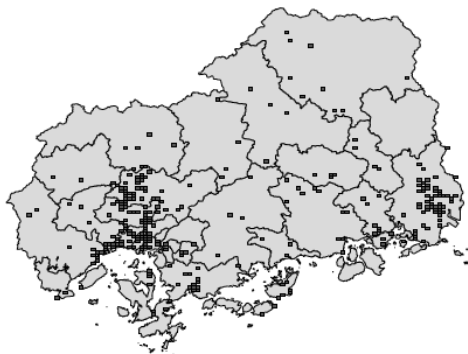


図8. アカミタンポポの分布

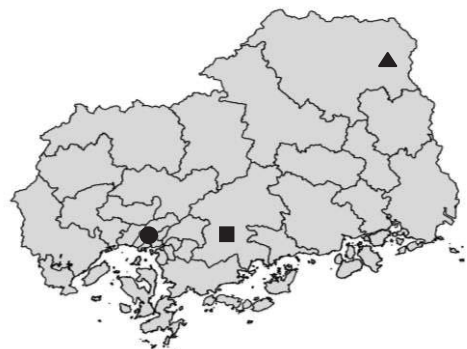


図9. トウカイタンポポ (■)、モウコタンポポ (●)、在来二倍体不明種 (▲) の分布